

## 再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道1号 湯本拡幅		事業区分	補助国道	事業主体	神奈川県
起終点	自：足柄下郡箱根町湯本 至：足柄下郡箱根町塔之沢			延長	0.3 km	
事業概要	本路線は、国際観光都市箱根の小田原方面からのメインルートとなっており、大型バスの通行も多く、休日には観光交通による混雑が発生している。また、昭和6年に竣工した函嶺洞門は、竣工後70年以上が経過し、老朽化が進み、洞門周辺の斜面は、土砂崩落の危険性がある。このため、円滑な交通の確保と安全性の向上を図るためにバイパスを整備する事業である。					
H9年度事業化	都市計画決定 なし (H 年度変更)		H10年度用地着手		工事未着手	
全体事業費	16 億円	事業進捗率	25%	供用済延長	0 km	
計画交通量	11,700台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.9 (残事業) 5.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 5 / 13 億円 (事業費：5 / 13 億円) (維持管理費：0 / 0 億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 25 / 25 億円 (走行時間短縮便益：25 / 25 億円) (走行費用減少便益：0 / 0 億円) (交通事故減少便益：0 / 0 億円)	基準年 平成18年		
感度分析の結果	なし					
事業の効果等	・バイパス整備により、十分な車道幅員を確保し、観光バス等大型車の円滑な交通を確保し、箱根町の観光振興が図られる。 ・災害に対する安全性の向上が図られる。					
関係する地方公共団体等の意見	特になし					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	なし					
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地交渉が難航し工事着手が遅れていたが、平成18年度に用地買収が完了した。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成18年度には、用地交渉が難航していた箇所が合意に達し、用地買収が完了した。平成19年度から本格的に工事に着手し、平成22年度の完成を予定している。					
施設の構造や工法の変更等	なし					
対応方針	対応方針決定の理由					
	国際観光都市箱根の小田原方面からのメインルートであり、交通の円滑化や災害に対する安全性の向上を図るために、本事業の重要性は高く、事業を継続する必要がある。					
事業概要図	<p>The map shows the project area along National Route 1. Key locations include Atsugi (至 宮ノ下), Shimo-Ogino (早川), Tsurunokuchi Tunnel (函嶺洞門), and Odawara (箱根湯本駅). The bypass construction site is highlighted in red, with a length of 310m. The tunnel length is 100m. A legend indicates: solid line for 'In Use' (供用中), dashed line for 'Project Area' (事業中箇所), and red line for 'Re-evaluation Area' (再評価箇所).</p>					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。